

学校評価シート（自己評価）

松 山 幼稚園

I 自己評価

1. 幼稚園の教育目標

(教育方針)
心身共に健全な幼児の成長発達の為に、適切な環境のもと、集団生活を通して幼児の自主性を育み、豊かな人間性を養うべく、この時期に必要な諸能力を開発を助長し、時代の変化に対応できる未来の子ども達を育てる幼児教育を推進する。

(教育目標)
丈夫なならだで元気よく、豊かな心でたくましく、みんなと仲良く遊べる子

2. 今年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標・計画をもとに設定した
学校評価の具体的な目標や計画

行事などを本来の形に近い状態に復活させ、更なる保育の充実に向け取り組む。
主体的にのびのびと活動ができるよう環境を整えていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果（※）	結果の理由
(1) 教育課程・指導	A	様々な体験を通して、心が育まれるように関わろうと努めた。指導計画では、行事や活動等子どもたちが喜ぶものと同じ場合が多く見られる為、少し形を変え行うよう心掛けた。
(2) 健康と安全への配慮	A	避難訓練、不審者訓練などあらゆる場面を想定して行っている。
(3) 幼児の見取と理解・対応	A	一人ひとりの性格を把握しながら対応し、子どもたちの気持ちを受け止めきれるよう心がけた。
(4) 教師としての資質 能力・良識・適性	A	色々な事に興味を持って主体的に活動し、沢山の経験をすることができるよう常に子どもの姿を思い浮かべ、保育に取り組んだ。
(5) 保護者への対応	B	クレームがあった場合は、真摯に受け止めすぐに相談し、迅速に対応を心掛けた。保護者に伝わり難い部分があったので、今後改善が必要。
(6) 地域の自然や社会との関り	A	園外保育を通して季節の自然に触れたり、地域の方々との関りが持てた。
(7) 特別支援教育	A	その日によって子どもたちの様子が大きく変わる為、指導の重点を常に考え保育を心掛けた。
(8) 研修	A	常に保育を振り返り、研修を通して学び、日頃から話し合えるよう心掛けた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果（※）	結果の理由
A	幼稚園本来の姿の保育に戻り、行事や保育も子ども達が伸び伸びと主体的に活動することができた。子どもたちは集団生活の中から学び合い、その姿を保育者は一人ひとりを把握しながら対応し、可能な限り子どもたちの気持ちを受け止めるよう心がけていた。また、子どもの安全を配慮し、常に保護者との連携を図るよう努めていた。今後も更なる保育の充実に向けた取り組みを心がけていきたい。

○結果（※）について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
(4)教師としての資質・能力 ・良識・適性	色々な事をこなしながら、役割による仕事を能率よく進めていく。
(5)保護者への対応	保護者へ適切に情報が伝わるよう常に意識し、子どもたちの成長や変化を保護者と共有し会えるよう伝え合う。
(6)地域の自然や社会との関り	小学校生活に期待や憧れを持つよう、小学校との交流を深め連携を図る。
(7)特別支援教育	特別支援について、子どもの成長や現状を把握し、教職員同士が共通理解を深める。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日 時 2025 年 3 月 28 日

10 時～11 時 （時間）

出席者 評価委員（ 4 ） 人

評価委員（ 4 ） 人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

目標、計画をしっかりと立て、また、幅広い項目で設定されており、適切だったと考える。

2. 評価結果の内容は適切であったか

設定した目標・計画・評価項目に従って適切な結果であると考えている。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

今後取り組むべき課題が設定されている点においては適切であると考えている。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

保育の世界においても多様化が求められている昨今、このような中で子ども達の為に、色々と工夫されながら保育活動されている先生方の尽力されている姿に感銘します。

多様な保育については、引き続き園と保護者が理解や協力をし合い、お互いが教育の意識を強く持つことが重要だと考えます。また、幼児期の体験を通しての学びの大切さが今後の子ども達の大元となっていく為、自ら学び合い共通理解を持ちながら保育に努めてほしいとのアドバイスはあるが、今後取り組むべき課題については適切に行われていくのではないかと考える。